

帝王切開の子ども  
小児肥満なりやすい

富大医師ら分析結果

富大芸術研究部医学系の寺下新太郎医師らの研究グループは、帝王切開で産まれた子どもは、そうでない子に比べ、3歳時点で小児肥満になりやすいとの分析結果を発表した。

環境省が2010年度から実施する疫学調査「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」に参加する母親と子ども6

万769組を対象に、出産方法と、3歳時点での子どもの肥満の関連性を調べた。体重を身長<sup>2</sup>の2乗で割った体格指数（BMI）を用いて解析したところ、男女ともに、帝王切開で産まれた子どもの方が、BMIが肥満基準を超える子が多かった。

研究の成果は4月21日、学術雑誌「サイエンティフィック・レポート」に掲載された。